



「NHK教育フェア 2008」の実施結果について

平成20年10月22日（水）～11月3日（月・祝）

公共放送NHKの多様な教育サービスを、視聴者やイベントの参加者に広く知っていただき、平成21年1月の教育テレビ開設50周年の先触れも行ない、さらなる信頼の醸成に努めた。

1. NHK秋のふれあい広場～教育フェア 2008～ 10月31日(金)～11月3日(月・祝)

「NHK教育フェア」の中核をなす視聴者ふれあいイベント。今年は英語番組で人気の子犬「リトルチャロ」をイベントのメイン・キャラクターに起用して、お客様をお迎えした。

4日間の総入場者数： 93,029 人（参考：昨年度 91,643 人）

■近未来の教育サービスを先取りした展示

- ・「そうぞうライブラリー」21年公開を目指し開発中の、NHK映像で創造性を養う新サービス。
- ・「ケータイカガク」テレビとモバイル、インターネットを組み合わせた開発中の理科教育番組。

■教育テレビ50周年へのいざない

- ・来年1月の教育テレビ開設50周年に向けて、50年間に登場した主な番組をボードに掲示。
- ・もう一度見たい番組を会場で投票。結果は教育テレビ50周年の特別編成に反映する予定。

来場者による総投票数： 3,346 票

期間中に寄せられたFAX、メールの数： 4,538 通（内訳 FAX:658、メール:3,880）

■体験スタジオ 505 視聴者とNHKのプロフェッショナルがふれあう双方向型展示

- ・人気のポップス音楽番組の映像を切り替える『スイッチャー体験』。
- ・「週刊子どもニュース」の模型に自分の姿を取り込んでみる『映像合成体験』。
- ・「ダーウィンが来た!」の映像を使って『効果音体験』、そのほか人形劇の操演体験も実施。

■視聴者に人気の定番ラインナップと新しい趣向

- ・屋外キッズステージ：「いないいないばあっ!」「天才てれびくん MAX」などの人気番組ショー。

- ・ロビー内特設ステージ:「**美の壺**」ジャズ・コンサート、「**NHK朗読ひろば**」の新しい取り組み、「**フォト575**」「**シャキーン!**」「**ヒミツのちからんど**」「**ストレッチマン**」などの番組も登場した。
- ・アニメや語学、福祉、趣味実用番組の展示、ハートプロジェクトの屋外ワークショップも開催。

■会場から3日間、視聴者参加の生放送

- ・「**どーんと生放送! 教育フェア2008 学びたいは終わらない**」を3日間実施。

11月1日(土) 前 9:50~11:15、後 1:00~4:00 教育

11月2日(日) 前 10:05~11:30 総合

11月3日(月・祝) 前 9:00~11:00 教育

■同時開催イベント 今年も期間中、NHKスタジオパークを無料公開

- ・10月31日(金)~11月3日(月・祝) NHKスタジオパーク『**視聴者感謝デー**』無料公開
- ・11月1日(土)~3日(月・祝) パークギャラリー『**NHKファミリー放送体験クラブ**』
- ・10月31日(金)~11月3日(月・祝) NHKホール「**おかあさんといっしょファミリーコンサート**」(有料チャリティ・イベント)
- ・11月1日(土)~2日(日) **ふるさとの食 につぼんの食 東京フェスティバル**
- ・11月2日(日)~3日(月・祝) 渋谷区くみんの広場 **ふるさと渋谷フェスティバル2008**

■周知活動

NHKオンデマンド室の協力により、屋外キッズステージの大型スクリーンで、ショーの幕間に「NHK オンデマンド」の紹介ビデオを上映し、会場内でパンフレットを配布した。

2. 第35回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール 10月22日(水)~28日(火)

- ・今年度 『教育番組』から『音と映像を用いた教育コンテンツ』に募集の対象を広げ、再出発。
- ・昨年「JAPAN国際コンテンツフェスティバル」にオフィシャル・イベントとして参加。

■今年のエントリーは史上最多

・総数: 293本 (コンテンツ部門 209 シリーズ番組部門 47 企画部門 37)

・応募: 世界 59の国・地域 173機関

■今年を受賞

- ・グランプリ日本賞 (コンテンツ部門最高賞):

「**課外授業 ようこそ先輩 みんな生きていればいい**」 制作: 日本放送協会 (日本)

- ・シリーズ番組部門: 「**スコープ**」 制作: ネットワーク・テン (オーストラリア)

- ・企画部門: 「**そこに道はある**」 企画: シネリ (スリランカ)

■開催実績

- ・期間中参加者：35 カ国・地域 363 人（審査委員、一般参加登録者、授賞式出席者の合計）
- ・審査委員：13 ヶ国 17 人
- ・授賞式：10 月 28 日（101 スタジオ）皇太子同妃両殿下ご臨席のもと、各賞受賞者、審査委員、一般参加者、各賞授与団体、在日大使館関係者など約 300 人を迎え、能管とチェロの演奏をまじえ、厳粛かつ華やかに実施した。

■関連番組

- ・「第 35 回日本賞関連特集・Education 2.0 ～激変する世界の教育～」45 分版
10 月 18 日（土） 後 3:05～3:50 総合
- ・「第 35 回日本賞関連特集・Education 2.0 ～激変する世界の教育～」90 分版
10 月 31 日（金） 後 11:10～前 0:40 教育
- ・「第 35 回日本賞授賞式 世界に輝く教育コンテンツの祭典」
11 月 2 日（日） 後 9:00～9:59 教育
- ・「第 35 回日本賞受賞番組」 今年の受賞作品を一挙放送
11 月 3 日（月・祝） 後 6:00～8:00 教育

<国際放送>

- ・「第 35 回日本賞関連特集・Education 2.0 ～激変する世界の教育～」90 分版
12 月 29 日（月） 前 10:05～11:35 NHKワールド・プレミアム
- ・「第 35 回日本賞受賞番組」 今年の受賞作品を一挙放送
12 月 30 日（火） 前 10:00～12:00 NHKワールド・プレミアム

■周知活動

国際放送局の協力により、参加者ラウンジとクロスメディア・フォーラム会場で、開催期間中「NHK WORLD TV」の紹介ビデオを上映し、パンフレットを配布した。

3. 視聴者とともに作る特別編成 10 月 25 日(土)～11 月 3 日(月・祝)

- ・教育フェア 2008 会場からの 3 日間にわたる生放送や、各種イベント関連番組、また定時番組の特集などを総合、教育、衛星にわたって特別編成した。なかでも土よう親じかん 秋のスペシャル「“子育ての鉄則！“それってホント？”（10 月 25 日(土)後 8:00～）には小学生の子育て世代を中心に多くの反響が寄せられたほか、ETVワイド とともに生きる「LGBT」（11 月 1 日(土)後 9:30～）は 2 時間にわたり新しいテーマを深く取り上げ、当事者や関係者から約 250 通のメールが寄せられ、視聴者に広くアピールした。また、「健康スペシャル 2008 “脱メタボ！”」（11 月 1 日(土)後 8:00～）は、「ここが聞きたい！名医に Q」と「きょうの健康」制作班が共同で初の公開収録番組を放送するなど、特別編成期間の多彩な番組で、教育テレビの多様な視聴者のニーズに応えた。
- ・全中ニュースや首都圏ニュース、広報番組「もうすぐ 8 時プレマップ」、「三つのたまご」やスポーツなどでも積極的に取り上げた。

4. 第 59 回放送教育研究会全国大会 第 12 回視聴覚教育総合全国大会 合同大会:

10 月 24 日(金)~25 日(土)

今年も昨年に引き続き、視聴覚教育の研究団体と合同で開催。今年は千代田区立九段小学校で公開授業が行われ、国立オリンピック記念青少年総合センターで全体会などが開かれた。

参加者数: 1,285 人 (参考:昨年度 944 人)

■関連番組

・「放送教育全国大会関連特集 メディアでひらく教育新時代」

10 月 19 日 (日) 後 4:00~4:45 教育

5. アジアの制作者が集う「アジア教育プロデューサー会議」:10 月 23 日(木)~28 日(火)

来年 3 月実施「A B U 未来への航海 2009・サンゴ礁の海を守れ (フィリピン)」に参加予定のアジア 6 カ国 (インドネシア、カタール、中国、フィリピン、マレーシア、モンゴル) および NHK の教育番組プロデューサー 13 人が集い、現地での環境学習プログラムや撮影方法について議論し、国際共同制作の実践的な検討を行なった。

なお、今回の「日本賞」には、昨年のモンゴルでの記録をまとめたドキュメンタリー番組が中国中央電視台から青少年向けカテゴリーにエントリーされ、予備審査を通過した。

■関連番組

・「A B U 未来への航海 2009 プロローグ モンゴルからフィリピンへ」

10 月 25 日 (土) 後 4:00~4:50 教育

6. 第 9 回 NHK アジア・フィルム・フェスティバル:11 月 1 日(土)~5 日(水)

1995 年映画誕生 100 年を記念して、NHK はアジア諸国の新進気鋭の映画監督と映画の国際共同制作を始めた。映画製作を通じ互いの文化を理解しあうと共に、アジアの映像文化の振興、発展に寄与する事を目的に、映画制作にとどまらず作品の上映を行なっている。2007 年までに制作した映画は 18 の国と地域で 27 作品となった。

会場: NHK みんなの広場ふれあいホール (入場料 500 円)

入場者数: 1,919 人 (参考:昨年度 1,305 人)

■上映作品

国際共同制作:「僕たちのキックオフ」(イラク・クルディスタン地域)

アジア各国・地域制作：「0rz ボーイズ！」（台湾）、「My Son ～あふれる想い～」（韓国）、
「パンドラの箱」（トルコ・フランス・ドイツ・ベルギー）、
「追憶の切符」（中国）

招待上映作品：「キネマの大地」（中国）

■関連番組

- ・「予感」（イラン・NHK 2007年作品）など2005～2007年制作の5作品を9月にBSHiで放送。
- ・同6作品を10月にBS2で放送。

【資料】

第35回「日本賞」受賞作品一覧

【コンテンツ部門】

賞	作品名	国・地域	制作機関	種別	
グランプリ日本賞	課外授業 ようこそ先輩 みんな生きていればいい	日本	日本放送協会	番組	
幼児向け 最優秀作品 総務大臣賞	ツェハイ 愛をまなぶ	エチオピア	ウイズ・キッズ・ワークショップ	番組	
児童向け 最優秀作品 文部科学大臣賞	アナッシュ・インタラクティブ	カナダ	リール・ガールズ・メディア	ウェブ	
青少年向け 最優秀作品 外務大臣賞	課外授業 ようこそ先輩 みんな生きていればいい	日本	日本放送協会	番組	
生涯教育 最優秀作品 東京都知事賞	NHKスペシャル 100年の難問はなぜ解けたのか 天才数学者 失踪の謎	日本	日本放送協会	番組	
福祉教育 最優秀作品 NHK会長賞	ヨルダン川西岸 2つの学校	イギリス	ティーチャーズ・テレビ	番組	
特別賞	国際交流基金理事長賞	茶馬古道 祈りの道 (生涯教育カテゴリー)	韓国	韓国放送公社	番組
	ユニセフ賞	有害情報と子どもたち (生涯教育カテゴリー)	カナダ	カナダ国立映画制作庁	番組

【シリーズ番組部門】

賞	作品名	国・地域	制作機関	備考
前田賞	スコープ	オーストラリア	ネットワーク・テン	8-14歳向け

【企画部門】

賞	作品名	国・地域	企画機関
放送文化基金賞	そこに道はある	スリランカ	シネリ
特別賞 日本ユネスコ協会連盟賞	ほら見て、わたしの手	ネパール	ネパール・テレビジョン